



浜田市岡見地区

オンリーワンのまちづくりを目指して

山と海に囲まれ、生活を支える施設は地区の北部（海岸部寄り）に集中している岡見地区。スーパーマーケットの閉店といった課題に対して、その10ヶ月後に移動販売を誘致するなど、まちづくり推進委員会がスピード感を持って活動しています。また、地域で活躍する団体との協働を意識し、地域が一体となった取組を進めています。

これまでの地区のあゆみ

H21 「岡見地区まちづくり推進委員会」を設立

H27.2 地区唯一のスーパーマーケットが閉店



買い物支援対策の話し合いの様子

H27.12 移動販売の誘致



移動販売の初日の様子

H28 「わくわくマーケット」を開店

H29 「岡見地区まちづくり計画書」を策定(5か年計画)



各部会の課題検討案

Step 小さな拠点づくりのステップ

step.1 体制 地域団体を活かした体制づくり

浜田市の働きかけのもと、自治振興会、地域福祉推進協議会を中心に、住民自らが地域課題と向き合い、一体となって解決に向かう組織として「岡見地区まちづくり推進委員会」を設立。既にある地域の力を活かしつつ、その連携を促す組織とするため、地域団体から委員会メンバーを選出し、体制を構築しました。

step.2 共有 我がまちの良いところを探そう

委員会では、課題だけではなく地域の良いところを探し、“地域住民全てに「笑顔」が溢れて「住んで良かった」と思えるまち”を目指し、取組を進めてきました。

step.3 計画 人・物・自然を掘り起こす

1年間の事業計画を立てて活動していましたが、“地域の今”だけでなく長期的な視点を持って活動するため、平成29年に5年間に渡る計画を作成することに。「人・物・自然」をテーマにしたワークショップで、地域の魅力や課題を掘り起こし、“オンリーワンのまちづくり”をスローガンに計画を作成しました。

step.4 実践 地域住民が集える場づくり

買い物支援として毎週水曜日に開かれる「わくわくマーケット」に、交流の場となる「にこにこサロン」を開設することで、地域住民が気軽に集える環境をつくりだしています。また、3ヶ月毎に発行する広報誌「もやい」には地域のイベント等を掲載し、町内外の方が地域活動に参加しやすくなるなどの工夫をしています。



にこにこサロンの様子

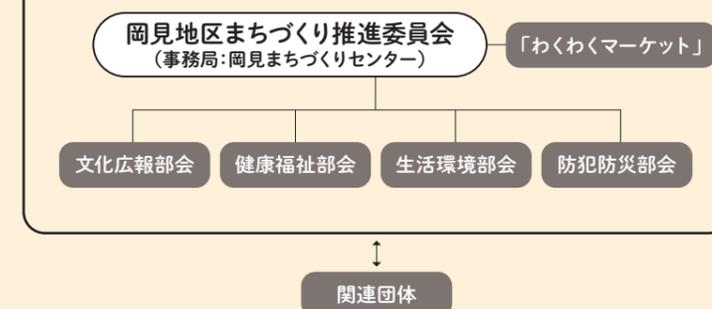
step.5 発展 守りから攻めへ

これまででは地域活動の継続や、買い物など生活に必要な施設を「守る」活動を中心に行ってきました。一方、人口減少が進む中、子どもたちの声が地域でいつまでも響くまちであり続けるために、外から人を呼び込む「攻め」の活動に向けた話し合いも始めています。



- 人口 1,181人(高齢化率 41.2%)
- 地域の特徴
 - ・三隅火力発電所関係の社宅があり若者世代が多い。まちづくりへの参画もみられ、地域に外の風を入れてくれる
 - ・地区内にはJR岡見駅があり、国道9号線が横断。令和7年度には山陰道が開通予定で、岡見インターチェンジができる予定

体制図



私たちのやり方 Our Project



賑わいを取り戻す わくわくマーケット

J A店舗跡地を借り受け、まちづくり推進委員会が毎週水曜日の10:00~11:30に「わくわくマーケット」を開店。毎回20人程度が訪れ賑わいをみせています。また、スーパーマーケットが交流の場も兼ねていたことから、「にこにこサロン」を併設。買い物・交流の拠点となり、高齢者の引きこもりの防止、集うことの楽しみにつながっています。

まちのひとの声

利用者

にこにこサロンでは、皆さんと楽しく会話できて元気が出ます。毎週水曜日を楽しみにしています。わくわくマーケットができてよかった。

実践者

運営スタッフは、レジ担当者を除き、個々に役割はもうけていません。各自が考えて行動していることが、良好なチームワークにつながっています。

step.1 課題

平成27年2月、地区内唯一のスーパーマーケットが撤退し、買い物施設がなくなるだけでなく、住民同士の交流の場も失われました。

step.2 計画

委員会で「買い物支援対策」の協議を進めることに。まずは全住民に、買い物の現状・希望を把握するためのアンケートを実施。「買い物施設が遠く、歩いて行けない」との声が多く、移動販売を視野に検討を開始。先進地視察や話し合いを重ね、閉店から10カ月後の12月、通いながれたJ A店舗跡駐車場に移動販売を誘致しました。

step.3 トライ

移動販売では食料品のみでしたが、J A店舗跡を活用し平成28年4月に農産品、6月に日用品等の販売へと拡げ「わくわくマーケット」を開店。併せて交流・憩いの場「にこにこサロン」を開設し、高齢者の見守りにもつながっています。運営スタッフも利用者の声を聴く機会が増え、地域への関心や地域活動への機運が高まりました。

step.4 改善

店舗のシャッターが閉まったままで寂しい印象がありましたが、岡見小の児童が描いた絵でラッピングし、明るさと賑わいを創出。岡見地区のシンボルとなりました。毎月1週目に買い物をすると、マーケットのみで利用できる金券を配り、再訪の仕掛けに。サロンでは健康相談や研修会などを開催し、多目的な場となりました。



小学生のシャッターアート

step.5 これから

今後は、マーケットまでの移動が難しい方のために、移動支援を検討していきます。また、高齢者の生きがいづくりとして“ものづくり”を行い、マーケットでの販売を目指しています。

地域の危険を見える化 交通安全・防災・防犯マップ

主に子どもと高齢者を守るため、防災防犯部会を中心に学校の先生など関係者とまち歩きを実施。誰にでも見やすくわかりやすいように、危険箇所を写真で表示したマップを作成。自治会集会所や子ども110番の家に設置しました。行政への働きかけで舗装された箇所もあり、住民の安心につながっています。



まち歩きの様子